

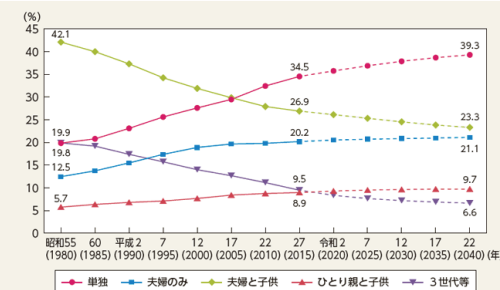
### リフォーム前



### リフォーム後

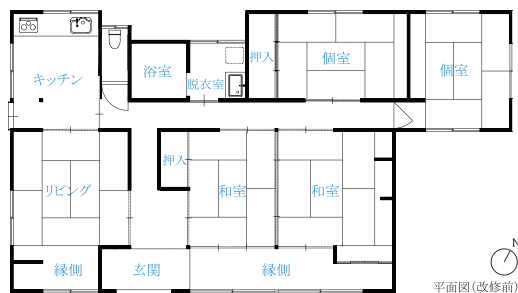
**Concept 家族形態の変化に対するこれからの住宅の提案**  
近年、日本において家族形態の変化が進んでおり、中でも夫婦2人世帯の割合が増加している。従来のように核家族を前提とした住宅ニーズが減少する一方で、夫婦2人世帯が自分たちのライフスタイルに合った住まいを選ぶ傾向が強まっていると考えられる。このような背景から、新築住宅の需要が相対的に低下し、中古住宅市場が拡大している。新築住宅は従来、家族の拡大や将来を見据えた長期的な投資として選ばれることが多いが、夫婦2人世帯ではそのようなニーズが薄れつつある。代わりに、本プロジェクトのように経済的な選択肢として中古住宅を購入し、自分たちの好みに合わせて改修するという選択肢が広がっていると考えられる。実際、本プロジェクトでは賃貸住宅に住み続ける場合と同等の月々の支払いで、賃貸住宅では得られない豊かさを実現することができた。壁面を板張りとしているため、暮らしながら設えをアップデートする住宅である。

特-6図 世帯の家族類型別構成割合の推移

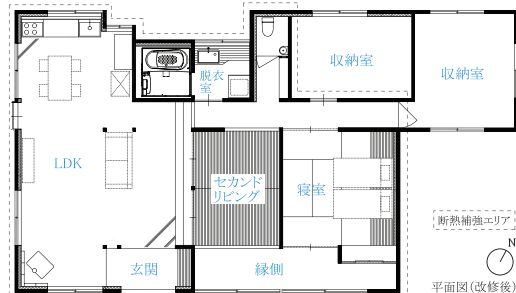


(備考) 1. 国立社会保障・人口問題研究所「日本の世帯数の将来推計(全国推計)」(2018(平成30)年推計)より作成。  
2. 一般世帯に占める比率。「3世代等」は、親族のみの世帯のうちの親族以外の世帯と、非親族を含む世帯の合算。  
3. 「子」とは親族内の最も若い「夫婦」からみた「子」にあたる親族の世帯数であり、成人を含む。  
4. 平成27(2015)年は家族類型不詳を案分した世帯数を基に割合を計算している。令和2(2020)年は推計値。

※参照:男女共同参画局 第1節 家族の姿の変化・人生の多様化



250坪の広々とした敷地に40坪の平屋と倉庫、庭園がある。2間つづきの和室と縁側から庭園を望む伝統的な構成に、近代的な必要諸室を付加した間取りである。家の状態はシロアリ被害も無く、建具なども再利用可能であったため、既存建物の良さを引き出しつつ、クライアントの暮らし方を溶け込ませていく設計が求められた。キッチンなどの設備機器は全て一新するが、和天井はそのままに、既存畳は表のみ変えるなど、引き継ぐ事ができるものをクライアントと協議した。



友人を招いても広々と感じることができるよう建物左側に大きなLDK(土間空間)としてまとめ、パブリックな空間とした。2間つづきの和室はそれぞれセカンドリビング、寝室として用途を分けた。セカンドリビングはLDKと建具で間仕切り、床座でくつろぐことができる空間とした。このような空間構成とすることで、2間つづきの和室を現代の生活スタイルに合わせた。築33年の住宅が、新たな住まい手の暮らしぶりを空間に落とし込むことにより全く異なる姿としてアップグレードされた。



構造体が現しとなった吹き抜けのLDK ※  
※ 2024 Tomonari Shimasaki



既存建具、天井を残し、珪藻土で仕上げた寝室 ※



南側の窓から自然光が差し込む明るいリビング ※



冬は火を愉しみながらくつろぐリビング ※



屋根瓦のみ再塗装をした ※



元和室をアワン板張りとしたセカンドリビング ※



日用品が風景となるキッチン ※

応募者・設計者・施工者

株式会社ベガハウス

築年数

33年

構造

木造

建方形式

平屋

竣工

令和6年7月

工事期間

75日間

工事費

1,669万

所在地

伊佐市

リフォーム内容

断熱、大工、内外装、電気、設備工事